

第1日曜日
主日第一礼拝 9:00～
主日第二礼拝 10:30～
その他の日曜日
教会学校 9:00～
主日第一礼拝 9:00～
主日第二礼拝 10:30～

日本基督教団 麻布南部坂教会会報

2022 (令和4年) 9. 11

牧師 松谷 祐二

〒106-0047 東京都港区南麻布4-5-6 Tel & Fax 03 (3473) 1276
E-mail church@nanbuzaka.com http://www.nanbuzaka.com/

祈祷会
第2日曜日 礼拝後
成人会
第3日曜日 礼拝後
婦人会
第4日曜日 礼拝後
教会附属 南部坂幼稚園

印刷 有限会社 創文社 Tel (3491) 8321

「本当の善悪の知識」

牧師 松谷 祐二

創世記 第二章七～九節

主なる神は、土(アダマ)の塵で人(アダム)を形づくり、その鼻に命の息を吹き入れられた。人はこうして生きる者となった。主なる神は、東の方のエデンに園を設け、自ら形づくった人をそこに置かれた。主なる神は、見るからに好ましく、食べるに良いものをもたらすあらゆる木を地に生えいでさせ、また園の中央には、命の木と善悪の知識の木を生えいでさせられた。

同一六～一七節

主なる神は人に命じて言われた。「園のすべての木から取って食べなさい。ただし、善悪の知識の木からは、決して食べてはならない。食べると必ず死んでしまう。」
(新共同訳聖書)

人は何によって善悪を判断できるでしょうか。自分のすること、他人のすること、世の中で起こることの善し悪しを、どうやって判断するでしょうか。法律によってでしょうか。道徳によってでしょうか。各人が自分の感じるままに判断すれば良いのでしょうか。

聖書の考えは明確です。神は人に命を与え、人のために良いものは何でも惜しみなく与えてくださる。しかし善悪だけは、人が自分勝手に決めるべきものではない。善悪は神のみが定め、人に教えてくださるということです。神が「このように生きよ」と仰せになる生き方を目指すべきであり、「このようにしてはならない」と禁じられることに近づくべきではないのです。しかし、わたしたちはそれを、あれもだめ、これもだめと言われているかのように窮屈に感じます。

創世記 第三章一～三節

主なる神が造られた野の生き物のうちで、最も

賢いのは蛇であった。蛇は女に言った。「園のどの木からも食べてはいけない、などと神は言われたのか。」女は蛇に答えた。「わたしたちは園の木の果実を食べてもよいのです。でも、園の中央に生えている木の果実だけは、食べてはいけない、と神触れてはいけない、死んではいけないから、と神様はおっしゃいました。」

蛇の誘導も、女の答えも、神に対して窮屈さを感じていることをうかがわせる言葉です。だから人は皆、善悪を自分で決めようとする。神が何と言おうが、わたしにもそれぐらい判断できる。そのほうが賢明な、好ましい生き方であるように思えます。

創世記 第三章四～六節

蛇は女に言った。「決して死ぬことはない。それを食べると、目が開け、神のように善悪を知ることとなることを神はご存じなのだ。」女が見ると、その木はいかにもおいしそうで、目を引き付け、賢くなるように唆していた。女は実を取って食べ、一緒にいた男にも渡したので、彼も食べた。

人は善悪を自分で決めることにしました。神から離れることになりました。その結果、わたしたちの善悪の感覚はばらばらになり、数々の悲惨な結果に巻き込まれていきます。「ただし、善悪の知識の木からは、決して食べてはならない。食べると必ず死んでしまう。」この神の言葉は本当だったのです。

それなら、神はどのように善悪を定め、教えてくださっているか。それは、聖書全体を通して学ぶことだと言えるでしょう。ただ、独学で聖書を読む人の多くが、ここで誤解をします。聖書は自分たちが達成できる、守るべき道徳、教訓のコレクションだと思ってしまうのです。多くの病人を癒やしたイエスのように生きてみよう、イエスを模範として生きてみよう、という具合に。キリスト教主義をうたっている学校で、こういう読み方で聖書が教えられていることがよくあります。この読み方は、いくらか好ましい結果を生み出す可能

性もありますが、誤解は誤解です。イエスが何をしたか、に注目するならば、どの福音書でも、ストーリーの終盤、この方が十字架にかけられて死を遂げていることを忘れてはなりません。ただ、この十字架の出来事もまた、誤解されやすい。これをも、守るべき道徳、教訓として解釈すると、「わたしたちも、自己犠牲の精神で生きましょう」という具合になります。

これらの誤解に共通するのは、「わたしたちは、良い教訓を忘れず、自分の道を生きていこう」という方向に、結局行ってしまうことです。

そうではありません。道徳、教訓としていくらの聖書の言葉を讀んだところで、わたしたちはどのように善にはなりきれず、達成はできません。できたつもりになる人もいますが、それは結局、善悪を自分で決めているからです。

神のように善悪を知ることではできないのに、自分で判断できると思つて神から離れてしまった人間。聖書を読んでいてさえも、自分に都合よく読んでしまうわたしたち。キリスト教会も個々のクリスチャンも、例外ではありません。このところ連日報道に名前が出る、かの宗教団体の教義は、キリスト教の聖書、教義をベースに、独自の解釈を施して作られたものです。聖書を誤解したキリスト教ほど、危ういものはありません。

イエス・キリストにとつてあの十字架の死は、自らなされたこと、何としてもやり遂げようとしたこと、でした。「自分で善悪を判断し、それぞれの道を行ける」というわたしたちの幻想を打ち砕き、神のもとへとわたしたちが帰る道を開くために、神の子が死んだのです。これは自己犠牲のお手本ではない。わたしたちにはできないことなのです。「善悪の知識の木からは、決して食べるべきではない。食べると必ず死んでしまう。」と言われているその死を、人となられた神の子イエスが、わたしたちの代わりに死んだのです。

善悪を定め、教えてくださるのはただ神のみ。神の子イエス・キリストが開いてくださった道を通つて神のもとに帰り、いつもそこに留まらせていただく、そのときにこそ、わたしたちは本当に「死」を免れ、「生きる」ことができます。

夏季学校

大司 宣子

八月二十八日の主日、第一礼拝に出席した小学校の子供達が「昨日は楽しかったあ〜と目を輝かせて口々に言いました。夏季学校を実施して良かった、と感謝しました。前日の午前中を共に過ごしたただけですが、仲間意識が生まれているように感じました。

夏休みの間、礼拝出席の習慣が遠のいてしまうことは仕方がない、と今まで思っていました。しかしながら、九月からの礼拝出席に繋がるようにと、八年振りに夏季学校を実施しました。今年度は礼拝で旧約聖書を読んでおりますので、ダビデを通して神様がどんな方かを知りたいと願い、テーマは「ダビデ」という人、といたしました。午前中の三時間という、普段の主日よりも時間の余裕がある中で、子供たちと共に思い巡らしたいと思いました。

開会礼拝では、サムエル記上に記されている「目に映ることではなく、心によって見る」と仰る神さまが、預言者サムエルを通して、羊飼いの少年ダビデをサウル王の後の新たなイスラエル王として選ばれた箇所について話しました。私達も神様に選ばれて礼拝に集っていることを覚えましたが、この日、小学一年のお姉さんと一緒に来た南部坂幼稚園の年少の男児が真剣な表情で聞いていたことが、印象に残りました。

そして次に、少年ダビデがペリシテ人の巨人ゴリアトに石で立ち向かっていき、倒すところを描いた絵本を臨場感たっぷり

北川姉が読んで下さいました。そして、子供たちもダビデ少年になったつもりで、いざゴリアトとの戦いに！小学校の皆で七月に製作したゴリアトの額の的を目標けてボールを投げるゲームです。四年生の女兒と五年生の男児の二回のプレイオフ、皆の応援の中、女兒が勝利。大変盛り上がりましたので、十月にもう一度ダビデの選びの箇所を礼拝で聞くその日の分級に、またこのゲームをと考えています。

次は持ち帰り用の製作をしました。木の白いフォトフレームに各自のこだわり満載で、モザイクタイルを飾りました。フレームに入れるものは、ダビデが書いたとされています。沢山の詩編の中から、有名な二十三編を選びました。その一節と六節のルビのある原稿を既に松谷先生にお願いして作って頂いておりましたので、素敵な詩編のフレームが出来上がりました。普段の分級と違い、ゆったりとした時間の中での製作、子供たちの楽しそうな表情を目にし、嬉しく思いました。次のさんびかを歌おう、というプログラムではこどもさんびか改訂版に入っている「さあダビデのように」という初めてのさんびかを練習し、その後の閉会礼拝の賛美につなげました。この礼拝ではフレームに入れた詩編二十三編を聖書箇所としましたが、ダビデが受け取っていた神様との関係、「主は羊飼いで、わたしには何も欠けることがない」を通して、羊飼いであられる主が、弱く愚かな羊と共にいて、いつも守り導かれていたことを、羊は羊飼いなしでは生きていけないことを私達のこととして覚えさせました。そして、一節のこの有名なフレーズを覚え、翌日の第一礼拝後に皆で口を揃えて暗唱し、覚えられたこと

を共に喜びました。子供たちの夏の記憶の一ページとして残るかどうかわかりませんが、この日に向けて備えてくださった主に感謝いたします。夏季学校のただ中にいて、全てをおかえりみの内においてくださり、導いてくださった主に、喜びをもって感謝いたします。

報告

*「ウクライナ救援募金」には三万六千円の募金があり、教団社会委員会に送金しました。募金は、ACT (Action by Churches Together) Alliance の人道的支援活動に用いられます。

*未陪餐会員の佐柳理仁さん(佐柳理久兄のご長男)が六月、米国で結婚されました。おめでとございます。

*南部坂幼稚園では、七月十五日(金)から夏休みに入り、九月六日(火)から二学期が始まりました。

*松谷牧師が体調を崩されたため、七月十七日(日)の主日第一礼拝は休止、主日第二礼拝は、宍戸信次郎役員の見務により守りました。

*松谷牧師は、八月八日(月)〜二十日(土)まで夏季休暇となりました。八月十四日の九時から、教会学校の「夏休み親子礼拝」を礼拝堂で行い、主日礼拝は、大司宣子役員の見務により守りました。

各部報告

成人会

日時 七月十七日 主日礼拝後

場所 教会堂会議室

出席者 三名

閉会祈祷 下奥敏子姉

内容 エゼキエル書四章〜六章

松谷先生が急に休まれ、体調が悪くお休みの方や、大事を取ってお帰りになる方もおられ、寂しい会になりました。松谷先生が快癒されますよう、お祈りします。

三人で読み合わせをして疑問に思ったところはなかった。唯、神が、人々の面前で「人糞」でパンを焼きなさい。と言われたところには、私はじめ、他の二人も同感、想像するだけで気持ちが悪くなった。神はそれ程にイスラエルに対して怒りまくっていたのだ。

松谷先生の説教の替わりに行われた宍戸さんの奨励の話になりました。いのちの電話にボランティアとして二十年間関わってきたお話をしました。「聞いてあげること」が大事だとわかったそうです。

私も、教会へ行けなかった年月、今は天に召された北澤牧師に、一年に一度、長い長い手紙を送りつづけたことで救われたのです。

「聞いてくださった」のです。

(下奥敏子 報)

次回 九月十八日 未定
黙祷をもって閉会

婦人会

休会

